

ひきだし

映画「あまくない砂糖の話」を観て感じたこと 砂糖1日160gを摂り続けるどうなる

金野 嘉子さん 病院支部

主演・監督はオーストラリアの俳優デイモン・ガモード、恋人に影響され健康的な食生活をしてきたのですが、「人間は一日平均スプーン40杯(160グラム)の砂糖を消費している」という事実が驚き、彼自身が砂糖160グラムを摂り続け2ヶ月間でどんな肉体的変化が起きるかを記録した映画です。ジョギングや筋トレ等は続け、砂糖を摂るにも、ジャンクフードは食わず、健康食品と謳われているシリアルやジュース等を選び、1日2300キロカロリーを摂取した。彼は2週間で体重が増え肝臓や血液の数値が危険域に達した、実験を続けるのと精神的にも不安定になり、体型も変化、皮膚には吹き出物が出るようになっていった。

「安全・安心な医療、安心して働き続けられる大学病院を」

全大教病院協議会総会が2月11日12日と開かれ、11単組の代表と中央執行委員など20名の出席で活発な討論が行われました。

1年間の取組みの総括と今後の方針が可決され、「安全・安心な医療、安心して働き続けられる大学病院を」の実現を図ることを基本に、運動を強めていくことを確認しました。

複数の大学で労働基準局が指導に入り不払い残業代が支給されたことや、雇止めの問題でこれまでの上限(5年)を撤廃する回答を得たといううらやましい報告もありました。

2015年の看護労働の実態調査では、23人に1人が過労死の危険があるとの結果が出ています。私たち国民が安全・安心な医療を受けるためにも、看護師の増員は重要な課題となっています。

現在取り組んでいる「安全・安心の医療・介護の実現と夜勤交代制労働の改善を求める国会請願署名」をたくさん集め、医療や介護の現場で働く労働者の労働条件を改善させていきたいと思えます。

(病院支部 高橋京さん)

オーストラリアの原住民アボリジニが、生活の西欧化によって糖尿病や心臓病、喘息、皮膚病などの健康被害を受け、早死にしていること、アメリカでは、子どもの頃からある清涼飲料水を飲み続け、虫歯だらけで歯のなくなった貧困家庭の少年は、それでもその清涼飲料水を飲み続けると

言っていること、糖分を摂ることは人間の幸福感に影響を与えると学術的に証明されている。企業はそれを利用して「最も購買意欲が高まる甘味料の最高値」を探り商品開発をしていることなど本心に衝突が大きく、食の大切さを再認識させられた映画でした。

2月22日、お昼休みに軽食をとりながら開かれました。参加者は、12名のうち6名が准職員・時間雇用職員でした。資料を使って、経過と組合の動きなどを

テアナン

各支部・専門部の報告コーナーです

工学研究科支部主催
准職員・
時間雇用職員
懇談会

説明して意見交換をしました。
「限定正職員というのが突然出てきたので驚いた」「事務や先生に聞いても中身がよくわからない」「限定正職員に申請した人の所属局ではどのように評価されているのかわからない」等が話題になり、青葉山地区の説明会では意見を言いましょうという事になりました。



これからの日程

- 4/15 (土) 温泉と里山登山 (花巻一万寿山)
- 4/15 (土) 春のパートのつどい (メディアテーク)
講演: 佐藤由紀子弁護士
- 4/20 (木) 退職者の会総会 (戦災復興記念館)
講演: 在宅医療と介護保険 五十嵐ひとみさん
- 5/ 1 (日) メーデー宮城県集会 (勾当台公園)
- 5/ 3 (火) 憲法を守り生かす県民集会 (国際センター)
- 5/31 (水) 東北大の雇止めシンポジウム (アエル)

編集後記

「森友学園問題」、「築地市場の豊洲市場への移転問題」疑惑が深まる中、「コア」の新年度号が発行された。

この時期は、新しい職員が入ってくると共に、長い間組合に尽力されてきた仲間が定年退職で去る時期でもある。3面には、退職された2名の執行委員長経験者からの思い出と後輩へのエールが送られています。(編丁)